

牧師室から (2022.4. 24)

韓国には地震がなかった。結構前の話ではあるが、韓国の南の地域で震度1の地震があった時は、大きな騒ぎになったようだ。地震に対する対策が全くない韓国にとっては震度1の地震でも落下物があったりして、そこに住んでいた人たちは初めての地震でパニック状態になったということを知った。それを機に、地震などの自然災害に関する対策を強めているようである。

地震について聞いたことはあるが、経験したことがなかった私は、日本に来て初めて地震に遭ったときは、怖いよりも不思議な感じがした。天井にぶらさがって揺らいでいる電灯をみながら面白いと思うぐらいであった。武勇伝を語るように、地震について母に電話で話すと、母は不安そうであった。

2011年東日本大震災の直後、私たちが住んでいた石巻の凄まじい津波映像が韓国テレビにも放映されたようで、それに私たちの行方も分からなくなっていたので、母は気が気でなかったようであった。

この頃は海老名でも時々地震の揺れを感じている。このような地震だけではなく、コロナ禍も続いていて、それにウクライナ戦争のこともあり、この先、この世はどのようなようになるのか、という不安を抱くのは私だけではないであろう。

『戦争とか暴動のことを聞いても、おびえてはならない。こういうことがまず起こるに決まっているが、世の終わりはすぐには来ないからである。』そして更に、言われた。『民は民に、国は国に敵対して立ち上がる。そして、大きな地震があり、方々に飢饉や疫病が起こり、恐ろしい現象や著しい徴が天に現れる。』(ルカ 21:9~11)』

これは終末の徴に関する主イエスの話しであるが、まさに、今私たちはそのような時を迎えているのだろうか。しかし「その日、その時はだれも知らない。天使たちも子も知らない。ただ父だけがご存じである。(マタイ 24:36)」と、主は言われた。

今こそ、私たちは、この世を愛して独り子を送ってくださった神様の愛を信頼しつつ、目を覚まして、主により近づくときではないだろうか。

(鈴木善姫牧師)